

名前 () 日づけ (/) できた数 (/28)

使い方 書き下し文を声に出して読んでから、傍線の番号を手がかりに解きます。この教材の山は「不亦～乎（詠嘆）」「勿かれ（禁止）」「～んや（反語）」の三つの句法と、四字熟語がどの章から出たかです。

ここで読む章＝学而篇では、学んで復習する喜び・友が訪ねてくる楽しさ・人に認められなくても動じない君子の姿を説き（学而時習之）、口先だけのへつらいを戒める（巧言令色）。為政篇では、十五歳から七十歳までの自分の歩みを語り（吾十有五）、昔を学び直して新しさを得る姿勢（温故知新）、学ぶことと考えることの両立（学而不思）を説く。里仁篇では、真理を求める覚悟（朝聞道）と、君子と小人の判断基準の違い（義と利）を述べる。顔淵篇では、弟子の顔淵の「仁とは何か」という問いに孔子が「克己復礼」と答え、その具体策として「礼にはずれたものは見ない・聞かない・言わない・行わない」の四つを示す。

一次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

【学而篇】子曰はく、「①学びて時に之を習（なら）ふ、②亦（また）説（よろこ）ばしからずや。朋（とも）有り、遠方より来（きた）る、亦③樂しからずや。人知らずして慍（うら）みず、亦君子ならずや。」と。

【学而篇】子曰はく、「④巧言令色（かうげんれいしよく）、鮮（すく）なし仁。」と。

【為政篇】子曰はく、「吾十有五（じふいうご）にして学に志す。三十にして立つ。四十にして惑はず。五十にして天命を知る。六十にして耳（みみ）順（したが）ふ。七十にして⑤心の欲（ほつ）する所に従へども、⑥矩（のり）を踰（こ）えず」と。

【為政篇】子曰はく、「⑦故（ふる）きを温（たづ）ねて新しきを知れば、⑧以（もつ）て師と為（な）るべし。」と。

【為政篇】子曰はく、「⑨学びて思はざれば則（すなは）ち罔（くら）し、思ひて学ばざれば則ち⑩殆（あや）ふし。」と。

【里仁篇】子曰はく、「⑪朝（あした）に道を聞かば、夕（ゆふ）べに死すとも可なり。」と。

【里仁篇】子曰はく、「⑫君子は義に喩（さと）り、小人（せうじん）は利に喩る。」と。

【顔淵篇】顔淵（がんえん）、仁を問ふ。子曰はく、「⑬己（おのれ）に克（か）ちて礼に復（かへ）るを仁と為す。一日（いちじつ）ちじつ己に克ちて礼に復れば、天下仁に帰（き）す。仁を為すは己に由（よ）る。⑭而（しか）して人に由らんや。」と。

顔淵曰はく、「⑮請（こ）ふ、其の目（もく）を問はん。」と。子曰はく、「礼に非（あら）ざれば⑯視（み）ること勿（な）かれ、礼に非ざれば聴くこと勿かれ、礼に非ざれば言ふこと勿かれ、礼に非ざれば動くこと勿かれ。」と。

語注 子＝先生。ここでは孔子を指す。「子曰はく」は「しいはく」と読む。説ばし＝「悦」に同じ。心からうれしい。朋＝同じ学問を志す友。慍む（うらむ）巧言令色（かうげんれいしよく）仁＝人を思いやる心。『論語』の中心となる徳。十有五＝十五歳。「有」は「又」で、十と五をつなぐ。天命＝天から与えられた使命。矩（のり）罔（くら）し 殆（あや）ふし（あやふし）道＝人として生きるべき正しい道理。喩る＝よく理解している・通じている。ここは「判断の基準としてよくわきまえている」の意。義＝人として正しい筋道。利＝目先の損得。君子＝学問・人格ともにすぐれた人。反対は「小人」。礼＝社会の秩序を保つきまり・作法。目＝箇条・具体的な項目。※説み方が分かれるところ＝「慍みず」は「慍らず（いからず）」、「故きを温ねて」は「故きを温めて」、「心の欲する所に従へども」は「従ひて」と読む教科書もある。また「朋有り、遠方より来たる」は「朋の遠方より来たる有り」と読む教科書もあり、「勿かれ」は「勿れ（なかれ）」と送る教科書もある。お使いの教科書の読み方に合わせることを。

(1) ①「時に之を習（なら）ふ」の「習ふ」のここでの意味を書け。

(2) ③「人知らずして慍（うら）みず」の「慍む」の意味を書け。

(3) ④「巧言令色（かうげんれいしよく）、鮮（すく）なし仁」の「巧言令色」とはどのような態度か。

(4) ④「巧言令色（かうげんれいしよく）、鮮（すく）なし仁」の「鮮なし」はどのような意味か。現代語の「鮮やか」との違いにふれて書け。

(5) ⑦「故（ふる）きを温（たづ）ねて新しきを知れば」の「温」は、ここでは何と読むか。教科書によって読みが分かれることにもふれて書け。

(6) ⑨「則（すなは）ち罔（くら）し」の「罔し」の意味を書け。

(7) ⑩「殆（あや）ふし」の意味を書け。

B 句法（8～13）

(8) ②「亦（また）説（よろこ）ばしからずや」は、白文では「不亦説乎」の形である。この「不亦乎」はどのような意味を表す言い方か。

(9) ⑤「心の欲（ほつ）する所に従へども」の「所」はどのようなはたらきをしているか。「心の欲する所」の意味もあわせて書け。

(10) ⑧「以（もつ）て師と為（な）るべし」の「べし」はどのような意味か。

(11) ⑪「朝（あした）に道を聞かば」の「ば」は何形に接続し、どのような意味を表すか。

(12) ⑭「而（しか）して人に由らんや」の句法名と意味を書け。

(13) ⑮「視（み）ること勿（な）かれ」の「勿かれ」の意味・用法を書け。

C 主語・指す内容 (14～17)

(14) ①「時に之を習(なら)ふ」の「之」は何を指すか。

(15) ⑥「矩(のり)を踰(こ)えず」の「矩」は、ここでは何をたとえているか。

(16) ⑬「己(おのれ)に克(か)ちて礼に復(かへ)るを仁と為す」は、誰が誰のどのような問いに答えた言葉か。

(17) ⑭「而(しか)して人に由らんや」の「人」とは誰のことか。

D 口語訳 (18～21)

(18) ①②を含む「学びて時に之を習(なら)ふ、亦(また)説(よろこ)ばしからずや」を口語訳せよ。

(19) ⑤⑥「心の欲(ほつ)する所に従へども、矩(のり)を踰(こ)えず」を口語訳せよ。

(20) ⑪を含む「朝(あした)に道を聞かば、夕(ゆふ)べに死すとも可なり」を口語訳せよ。

(21) ⑫を含む「君子は義に喩(さと)り、小人(せうじん)は利に喩る」を口語訳せよ。

E 内容・記述 (22～25)

(22) ⑨「則(すなは)ち罔(くら)し」と、続く「思ひて学ばざれば則ち殆(あや)ふし」とを対比して、この章が説いていることを四十字以内で書け。

(23) ⑤⑥を含む為政篇の章(「吾十有五(じふいうご)にして学に志す」)「矩(のり)を踰(こ)えず」は、全体として何を述べたものか。

(24) ⑫「君子は義に喩(さと)り」とあるが、孔子はこの対比によって、人を何によって見分けようとしているのか説明せよ。

(25) ⑮「視(み)ること勿(な)かれ」以下で、孔子は「仁」を実践する具体的な項目(目)として何を挙げたか。簡潔にまとめよ。

F 文学史・思想 (26～28)

(26) 『論語』はどのような書物か。誰の言葉を誰がまとめたものかにふれて書け。また、儒教でどう位置づけられるかも書け。

(27) ⑦「故(ふる)きを温(たづ)ねて新しきを知れば」からできた四字熟語を書き、その意味と、『論語』の何篇の言葉かを書け。

(28) ⑬「己(おのれ)に克(か)ちて礼に復(かへ)るを仁と為す」からできた四字熟語を書き、読みも示せ。また、この言葉が『論語』の何篇に見えるかも書け。

【テスト直前チェック】この三つ ①「不亦～乎」は詠嘆。②「亦説ばしからずや」＝「なんと喜ばしいことではないか」。「喜ばしくない」という単なる否定に取ると、続く「亦樂しからずや」「亦君子ならずや」まで総崩れになります。②⑮「勿かれ」は禁止、⑭「～んや」は反語。「視ること勿かれ」＝見てはならない。「人に由らんや」＝どうして他人によろうか、いや、自分しだいだ。読みと意味をセットで。③四字熟語は「どの篇から出たか」までセットで。巧言令色＝学而篇、温故知新＝為政篇、克己復礼＝顔淵篇。記述問題の答えは、ほぼこの三つに集まります。